海岸地区　防災まちづくりシンポジウム　ニュース

～高砂コミュニティセンターにて、防災まちづくりシンポジウムが実施されました～

【司会】東海岸北三丁目自治会 松村さん、永井さん

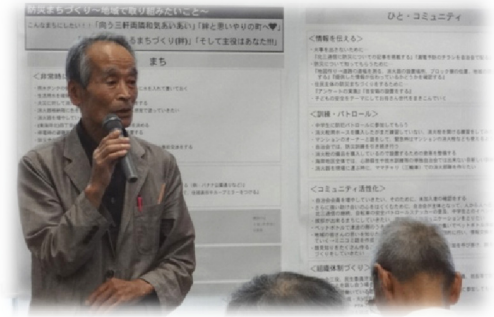
【開催のご挨拶】海岸地区自治会連合会 藤田会長

◆ワークショップ参加者◆

（住民）
海岸地区自治会連合会の皆様,第一中学校生徒会

（有識者）東京大学　生産技術研究所
加藤孝明准教授、小田切利栄特任研究員

（茅ヶ崎市役所職員）



【閉会のご挨拶】海岸地区自治会連合会　島田副会長

■8 月 25 日のシンポジウムで行われたこと■

開催のあいさつ	海岸地区自治会連合会　会長　藤田 博
来賓のあいさつ	茅ヶ崎市長　服部 信明 茅ヶ崎市教育委員会　教育長　神原 聡
基調講演 「地域から確実に進める防災まちづくりのヒント」	東京大学　生産技術研究所　准教授 加藤 孝明
海岸地区防災まちづくりワークショップ開催報告	東海岸北四丁目自治会　若林 文夫
茅ヶ崎第一中学校　防災活動の紹介	茅ヶ崎市立第一中学校　生徒会
「天サイ！まなぶくん 茅ヶ崎版」、Google　Earth を用いた情報提供の紹介	東京大学　生産技術研究所 准教授 加藤 孝明
【座談会】 テーマ「地域から進める防災まちづくり」	海岸地区自治会連合会　会長　藤田 博 東海岸北三丁目自治会　勝俣 隆夫 東海岸北四丁目自治会　中島 紳五 東海岸北三丁目自治会　井上 啓子 茅ヶ崎市立第一中学校　生徒会
閉会のあいさつ	海岸地区自治会連合会　副会長 島田 俊夫

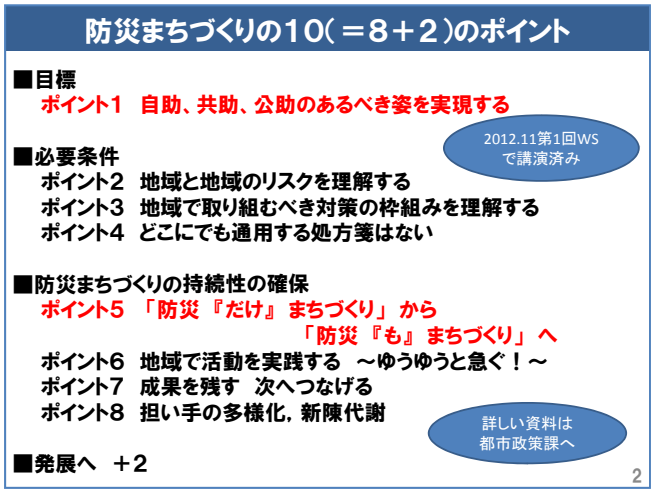
発　行：茅ヶ崎市　都市部　都市政策課　　発行日：平成 25 年 8 月
ＴＥＬ　0467－82－1111（内線：2504）　ＦＡＸ　0467－57－8377

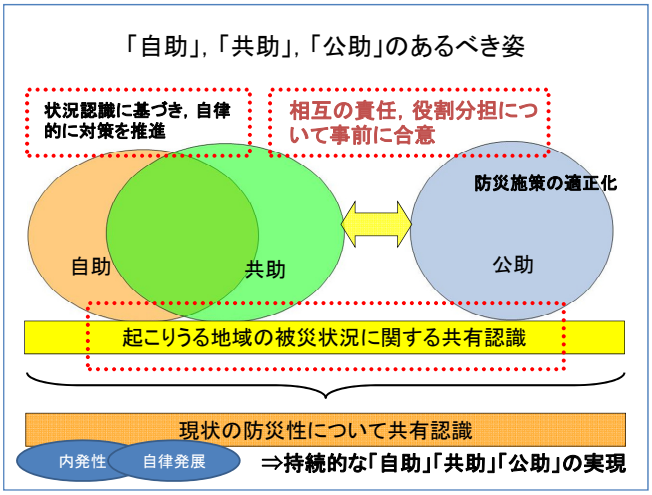
講演　「地域から確実に進める防災まちづくりのヒント」

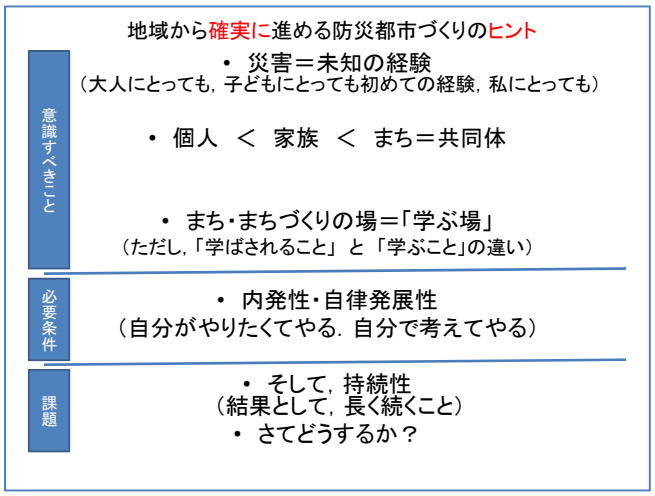
＜東京大学生産技術研究所准教授　加藤孝明先生＞

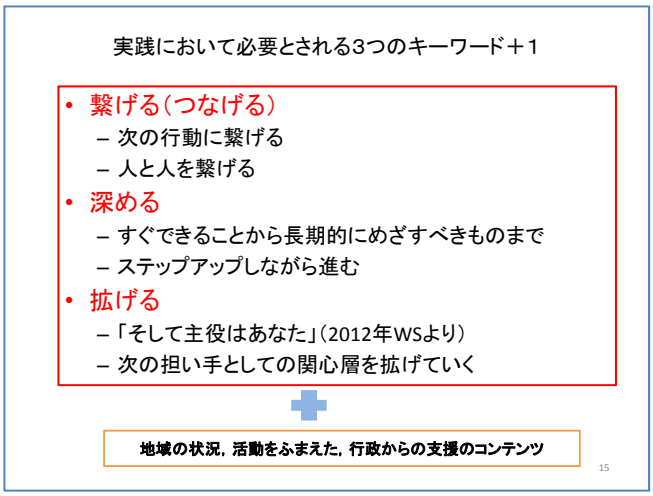
都市計画やまちづくりを専門とし、昨年度実施された海岸地区防災まちづくりワークショップをはじめとした茅ヶ崎市の都市防災事業に幅広く協力。市民協働の防災まちづくりに意欲的に取り組まれており、神奈川県地震被害想定調査等、国や自治体の都市防災分野の専門委員等を数多く歴任。

初回のご講演の振り返りとして、防災まちづくりのポイントのうち、「自助・共助・公助のあるべき姿を実現する」、「防災“だけ”まちづくりから、防災“も”まちづくりへ」の２点についてご紹介いただきました。また、全国４つの地域から小中高校生等が参加した“未来の大人 防災まちづくり会議 in 東京”や陸前高田高校の元校長先生とのお話などをもとに「地域から確実に進める防災まちづくりのヒント」として、意識すべきことは「災害は誰にとっても未知の経験であること」、「災害時にまちは運命共同体であること」、「まちやまちづくりは、自ら学ぶ場であること」、必要条件は「内発性・自立発展性」、課題は「持続性」である、とご紹介いただきました。









「天サイ！まなぶくん 茅ヶ崎版」、Google　Earth を用いた情報提供の紹介

ワークショップのまちあるきの際などにも使用した「天サイ！まなぶくん茅ヶ崎版」による情報提供や茅ヶ崎市の防災情報を Google Earth 上に重ね合わせる研究について、加藤先生から「報道などでも新しい防災ツールとして取り上げられることが多いが、“防災まちづくりの活動が「主」であり、ツールは「従」”と意識して、地域の危険性を正しく理解するツールを使って防災まちづくりのすそ野を広げていってほしい。」とご紹介いただきました。

休憩中に天サイ！まなぶくんを利用する中学生

「天サイ！まなぶくん 茅ヶ崎版」詳細は、茅ヶ崎市ホームページ掲載のページをご参照ください。
→　トップページ　＞　防災
＞　天サイ！まなぶくん　茅ヶ崎版

海岸地区防災まちづくりワークショップ　開催報告

○海岸地区の様子と地域危険度

海岸地区に住んで 44 年になります。海岸へも駅へも歩いて 15 分程度、とても良いところですが、引っ越してきた当時と比べると緑がどんどん少なくなってきてさみしい気がしています。地区では高齢化も進んでおり、地域危険度測定調査の結果を踏まえると、東海岸北三・四丁目は、茅ヶ崎市内でも災害時の危険度が高い地域であることがわかります。

○ワークショップの様子

ワークショップは、11 月に海岸地区全体を対象として行われたガイダンス、模擬ワークショップと 1，2 月に東海岸北三・四丁目を対象として行われたワークショップがありました。

11 月は、自主防災組織委員や自治会役員など地域の話し合いの進行役となる方々にお集まりいただき、防災まちづくりとはどのようなものかを一日で体験していただきました。

1 月、2 月のワークショップは、地域の住民、第一中学校の生徒さん、先生も参加して、海岸地区コミュニティセンターで行われました。

11 月のワークショップに参加した東海岸北三・四丁目自治会の役員や防災リーダーが中心となり地域の状況やまちあるきのポイントについて説明を行い、進行役として率先して意見のとりまとめなどを行いました。住民同士で知恵を出し合い、まちあるきで見つけたこと、気づいたことから、どのような取り組みが出来るか、どうすれば持続的な取り組みに出来るか、を考えました。

○ワークショップ後の地域の活動

ワークショップの話し合いで、「ミニコミ誌を作る」という意見が出た東海岸北四丁目自治会では、「北四たより」を作成しました。また、住民が主体の防災まちづくりをするための「アンケート」や「目安箱」といった意見があり、回覧板に封筒を付けた「目安箱」で匿名での意見を頂戴し始めました。目安箱の意見では“緑を増やしていきたい”というものがあり、資源ごみ収集による補助金を活かし、地域に緑と花を増やしていきたいと考えています。ワークショップを元に始まった取り組みが、まずは色んな分野に拡大していくことで加藤先生のおっしゃる「防災“も”まちづくり」につなげていければと思います。

ワークショップ日程・内容

防災まちづくりワークショップ　ガイダンス＆模擬ワークショップ（H24 11/25［日］）
対象：海岸地区自治会連合会 自主防災組織委員、自治会役員等
・ガイダンス、レクチャー（基調講演）、模擬ワークショップ（まちあるき）

防災まちづくりワークショップ　東海岸北三・四丁目　第１回（H25 1/27［日］）
・講演、まちあるき、結果の共有化（まちあるきの感想・結果のまとめ）

防災まちづくりワークショップ　東海岸北三・四丁目　第２回（H25 2/24［日］）
・話し合い（こんなまちにしたい、地域で取り組みたいこと）、結果の共有化

海岸地区防災まちづくりシンポジウム（H25 8/25［日］）
・報告会、座談会

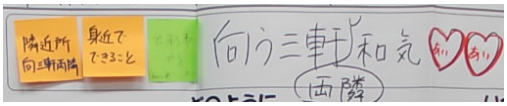
8

第２回の様子

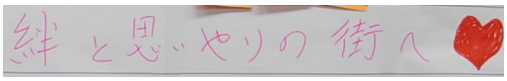
25

こんなまちにしたい！

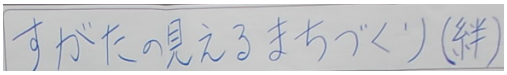
1班



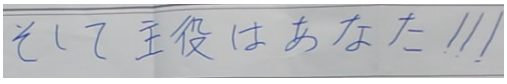
2班



3班



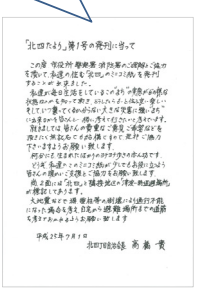
4班



28

北四たより

自治会長直筆のあいさつ文



北四周辺の避難場所記載の地図

33

第一中学校　防災活動の紹介

最近の第一中学校の防災に関する取り組みは、“防災アンケートの実施”、“被災地ボランティア体験とその報告会”、“生徒会新聞への防災豆知識の掲載”、“(海岸地区)防災まちづくりワークショップへの参加”、“未来の大人防災まちづくり会議 in 東京への参加”、“防災逃げ道マップの作成”等があります。

海岸地区防災まちづくりワークショップでは、地域の方々とまちあるきをし、その成果を話し合いました。また、今年の 8 月にも被災地ボランティアに行き、10 月に体験活動報告会を行います。この経験を活かしながら今後の防災について考えていきたいと思います。

○東日本大震災被災地ボランティア

私達が防災について考えだしたのは、東日本大震災が起きてからです。まず、募金活動を行いました。活動の中で自分達の防災は大丈夫なのかという疑問が起こりました。そこで実際に現地に行き、学んだことを自分達の住む地域に活かしていきたいと思いました。

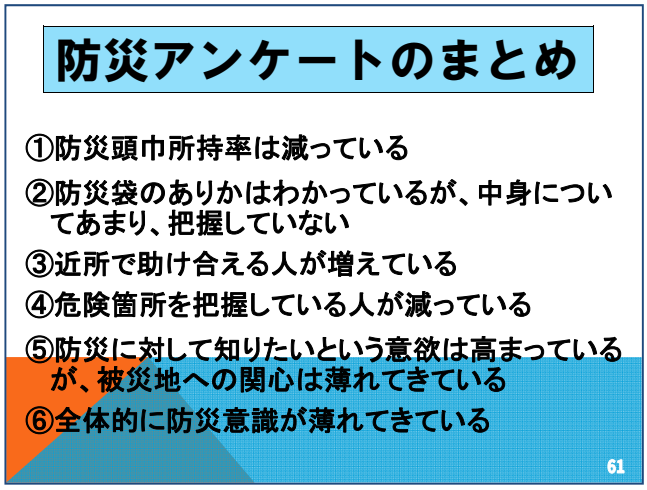
そして「被災地に赴き、大震災からの復興の現状を知る」、「一人ひとりが災害について深く考え防災意識を高める」、「学んだことを一中の生徒に伝える」ことを目的として被災地ボランティアに行きました。ビニールハウス内での石拾いをしたり、被災地の志津川中学校の生徒から話を聞いたりしました。

○中学校での防災アンケート

昨年から生徒に防災に対する意識のアンケートを行っています。昨年と比較して“防災頭巾の所持率が減っている”、“防災に対して知りたいという意欲は高まっているが被災地への関心は薄れている”、“全体的に防災意識が薄れている”といったことがわかりました。

○防災逃げ道マップ

海に近い学校なので、一中にいるとき地震が起きた場合、どのような道を行けば安全に避難できるのかを調べるために防災逃げ道マップを作成しました。逃げ道や海抜、消火器の位置、建物倒壊確率、道路閉塞率、避難場所、火災の恐れ等を調べながら歩きました。また、色あせている消火器は市役所の人と一緒に塗りなおす作業を行いました。



防災まちづくりワークショップの様子につきましては、茅ヶ崎市ホームページ掲載の『海岸地区防災まちづくりニュース』をご参照ください。

→　茅ヶ崎市ホームページ＞市政情報＞まちづくり＞都市防災＞防災都市づくりワークショップ

住民の皆様にパネリストとしてご登壇いただき、加藤先生にご進行いただいて座談会を行いました。

ワークショップ参加による防災意識の変化

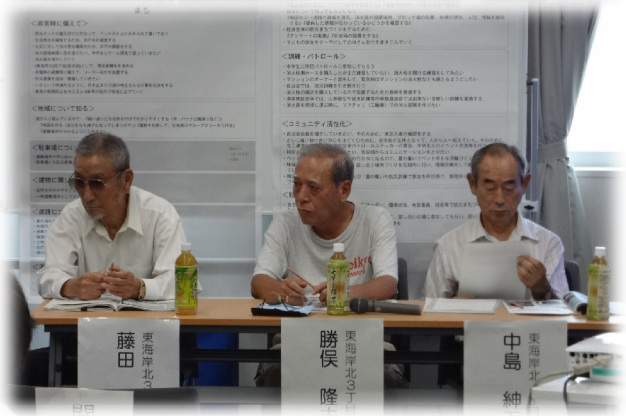
（加藤先生）まずは、ワークショップ参加のどのようなところがよかったかなどを、ご紹介いただければと思います。

（井上さん）ワークショップに参加して、改めて防災のことを考えると、とんでもない所に住んでいるのだなという意識を持つようになりました。例えば、道路の幅が狭くて、すれ違いの車も無理して通っていたり、行き止まりだと思っていたところが通れたり、逆に行けると思ったところが行き止まりだったりと道のことを知らないと困るなと思いました。

（加藤先生）なるほど、何十年も住んでいたけど意外にまちのことを知らなかった、ワークショップに参加してとんでもない街に住んでいることに気付いたということですね。

（藤田会長）東海岸北三丁目も四丁目も、道路の狭さは変えることができないし、区画整理ができるわけでもない。現状のまま、建物倒壊や火災の場合どうなるのかといった災害の危険性を知っていただく必要がある。ワークショップ以外でも日ごろのパトロールの際などにも、地域の危険性について再確認していただいて、火災への備えなどをしっかりしていっていただきたいし、そのような周知活動をしていきたいと思っています。

（加藤先生）道路のことでまとめると、基本的にこの地区は道路が狭いし、火災が燃え広がる可能性があるのは事実なんですよね。ただ、災害危険性が高いからといって、本当に危ない街かと言うと、そうではない。災害危険とそれに対する備えのバランスで街の危なさは決まってきます。災害危険性が高いけど危険性に対して備えている街と、何も備えていない街とでは、後者の方が危ないかもしれない。こういう場があり、みなさんが集まって話し合うきっかけになっているということが、むしろ、素晴らしいことかもしれないですね。



住民同士の対話の方法

（中島さん）ワークショップに参加してよかったと感じたこととして、話し合いの中で出た“北四たより”や“目安箱”の意見のことがあります。実際に回覧板に封筒を付けて目安箱として意見を集めたら、それに応えていかなきゃいけなくなりました。そのようなことを始めて、ワークショップで教えてもらった共助の強化が始まったなと感じています。

（加藤先生）そうですね。目安箱の取り組みは先駆的で非常に面白い感じで進んでいますね。実際、始める前にどのくらい意見が集まると思っていましたか。

（場内）最初は期待していませんでした。案外意見があり、うれしく、びっくりしています。

（加藤先生）例えば、行政でも「〇〇計画」というのを作ると、パブリックコメントといって、市民に意見を募集しますが、茅ヶ崎市では、どのくらい集まるものですか。

（場内）ものによりますが、30～60 件くらいですね。

（加藤先生）茅ヶ崎市は割と意見が出やすいんですね。他の都市だと、行政が集めても 10 件程度ということもあります。今回の目安箱の意見として 8 件来ているというのは、非常に盛んだと言えるかと思います。みなさん身近な地域に対して何かしたい、という思いが強いのかも知れませんね。

（場内）目安箱のこれからの課題としては、いただいた意見にどう回答するかということだと思っています。北四たよりに特集号を組んで、意見をご紹介しようと思っています。（緑を増やしていきたいという意見に対しては）花と緑の会として、リーダーなども決めて、早速始めていこうとしています。

（加藤先生）どちらの方ですか。どうぞ、取り組みへの意気込みをお話しください。

（場内）まちづくりとして、みんなで楽しく、お花や緑を通して、仲間作りをしていければと思っています。まだ、どういう形になるかはわからないのですけれども、一人ではできないことなので、今度出す（北四たよりの）2 回目にリーダー的になってくれる人を募集して、一緒に考えていきたいという準備段階です。本格的に動くのは来年からになるかと思います。花や緑を通して、みなさんと声を掛け合うことで、防災にもつながっていくのではないかと思っています。

（加藤先生）防災というとたいてい堅いし重い話になりがちですが、そうではないアプローチもきちんとしていくということになりそうですね。
ワークショップで付箋に貼って話し合うという方法はいかがでしたか。中学生は学校でもやりますか。

（場内）授業、教科にもよりますが、そういう話し方をすることもありますね。慣れてはいないですが。

（加藤先生）大人はどうですか。

（場内）会社ではあるが、自治会などではあまりやったことがない。

（藤田会長）市のワークショップはたいてい付箋に貼る方式でやっていると思う。それぞれの意見が出しやすいのはいい点であると思いますが、それをどう取り上げて、どう行動を起こすか、意見にどう返事をするかが課題となりやすい。

（加藤先生）北四丁目はどうですか。

（場内）会議ではやりますよね。自治会ではやったことないけど、意見書けるのはいいね。大勢いる中では意見言いにくいから。

（加藤先生）今日も紙配っとくとよかったですかね。大勢いる場では意見が言いにくい人もいるし、また、新しいものを生み出すには、玉石混合のアイディア出しが必要な場もある。そうすると、先ほどの目安箱についてもそうですが、意見が出た時にどう応えるのかが課題になりますね。自治会が一方的に答える側になるのではなくて、意見を出した人を取り込んで一緒に考えていくような仕組みとすることがいいのではないかと思います。

自助・共助と公助の役割分担

（藤田会長）聞いてみたいのですが、開催報告で紹介されていた消火器塗りは、どのくらいかかるのですか。

（場内）今回は 2 班に分かれ、10 か所程度を塗りなおしました。4～5 人で一緒に回って、1 か所につき、10 分程度です。

（中島さん）われわれだけでは、難しいね。（消火器も）200～300 か所あるからね。

（勝俣さん）北三丁目としては、やりたかったんだけど、夏場は年寄りだと倒れるといけないから涼しくなってからやろうと思います。やってみて、どうでしたか。感想は。

（一中生徒会）やったことのない初心者でもできるくらいでした。

（勝俣さん）10 分でできるということだしね。

（場内）私は北四丁目に所属していて、消火器塗りも自治会で話が出たけど、塗るのは反対だと言ったんですね。正確な数はつかんでないけど、たくさんあるからね。中学生に全部塗ってもらったらいいのかもしれないけど、市がやるべきだと思う。

（勝俣さん）消火器置くのは、市からお願いがあるんですよね。三丁目では色が禿げてるのだけを塗るようにしていきたいと思ってますよ。全部を塗ろうとしなくても、年に数個ずつやっていこうと思っています。

（場内（植松会長））浜竹一丁目の会長をやっている植松ですけど、うちの自治会も延焼危険性の高いクラスターにあるそうなので、防災資器材の補助金で毎年 20 本の消火器を購入しています。

ワークショップの最初の回でもお話しさせていただいたけれども、市にお願いしているだけではなかなか進まないものです。同じように色がはげてよくわからない消火器もあると中学生の防災マップ作りのときに言われたことがあります。自前で購入している消火器は役員の玄関前に置くようにしています。適正な配置を考えながら、もう少し増やしていこうと思っています。

（場内）せっかくなので中学生に聞いてみたいのですが、災害があったときに、どこに避難するのですか。

（一中生徒会）学校の 3 階に避難することになっています。

（場内）自分のところはマンションだが、震災の時にも、マンションからみんなが飛び出してきて、どうしたらいいのかわらないという感じで避難場所が分からない人がいて、先に決めておく必要があると思いました。自分のところのマンションも津波一時退避所として検討しているけれども、災害時は行政の支援がほとんど考えられないのですよね。例えば避難してきた人にトイレを貸すとなると、住民の負担になる。それ以外にも、オートロックなので誰が開けるのか、といった問題がある。

（加藤先生）他の地区でも、マンションの人とそうではない人との課題というのはある。お祭りなどで仲良くなって、顔の見える関係になっておいて、お願いするというところはありますね。

（場内）災害時に車で逃げようとすると非常に混乱するのでやめた方がいいが、市全体でどうするのかを考える必要がある。また、東日本大震災の際も、発災後に海に向かって走っているバスがあった。バスの運行に対しても企業と協力して検討する必要があると思う。

（加藤先生）避難に関しては色々な可能性があると思う。市で考えていたり、バス会社が考えていることを共有できていない部分があるのだと思う。どんな災害が起こりうるのかを想定した上で、一緒になって話し合うことが必要だと思う。

他に意見など、どうですか。

（場内）消火栓を開けていざという時使えるようにしていると聞いたことがあるのですが。

（植松会長）浜竹一丁目では、消防に手伝ってもらって、消火栓を使った訓練をしています。やってみると女性でも何とかできるという印象でした。

（勝俣さん）北三丁目でも、消防署の方に来ていただいて実践練習をしてみました。ただ、地震時の火災にしか使ってはいけないと消防の方に言われました。

（藤田会長）平常時でも消防車が入れるような地域ではないので、普段から地域の人が消火栓を開けて、消火できるような法整備をしてもらいたい。

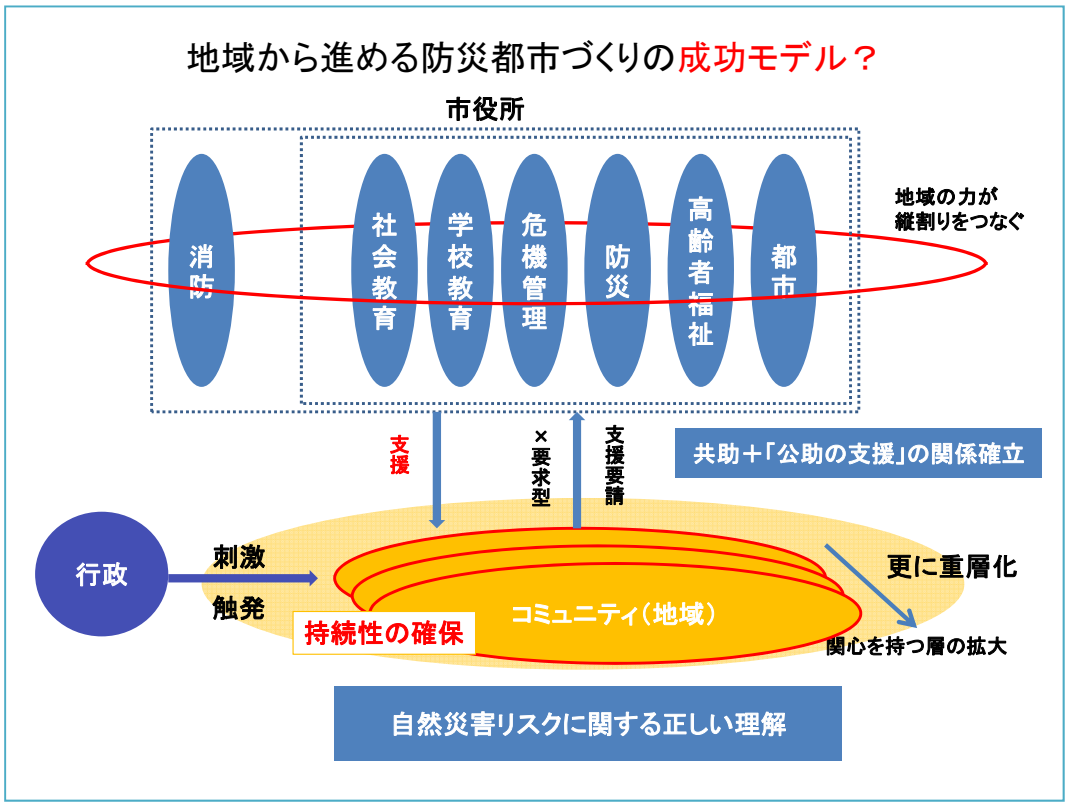
（加藤先生）消火に関しては、危機管理上の課題というのがありますね。リスクとして、マンホールのふたを開けてうっかり足を挟んでしまうなどの事故も考えられる。けれども、実際の災害の際は足を挟むかもなんて言っていられない。他にも色々と課題はあるかもしれないけれど、いざとなって使えないなんてことのないようにしておく必要がありますよね。

まとめ　住民活動成功のモデル

（加藤先生）先ほどの講演で話しきれなかった地域から進める防災まちづくりの成功モデルについてお話して、まとめとしたいと思います。

これまでの取り組みやみなさんの話からも見られるところではありますが、地域コミュニティに何らかの刺激を行うと、今日の議論のように様々な意見が出たり、取り組みが始まります。

その取り組みの中で一方的に要求するのではなく、行政に支援を要請する形で地域が動くことで、行政の縦割りをつないでいく力になります。そうすると自助共助が主で、公助がそれを支えていく側になります。それが、成功モデルの初期段階です。そこから持続性を確保していく必要があります。そのためには、地域が多様な団体を巻き込んで重層化していくことが望ましいです。そして、将来の担い手も今の段階から取り込めるような環境を作っていくことが必要です。また、活動の中では自分たちの取り組みがどのステージにいるのかを考えてみることも重要です。



シンポジウムのご感想アンケート結果

シンポジウムの際に、ご記入いただきましたご感想の一部をご紹介します。
貴重なご意見をありがとうございました。

■座談会で大人たちが話し合っているのを見てすごいと思ったし、細かい視点からの質問も見習おうと思った。いい経験になりました。ありがとうございました。

■それなりに防災意識は高いと思っていますが、本日の資料を再度読み直してさらに防災意識の向上につとめたい。自助の部分は判るが、共助の部分でどこまで手を出して協力すべきか判りません。ふだんのつきあいがなさすぎる。日常の自治会活動に協力して欲しい。

■持続性を確保して次もお願いします。
(自治会内や小学校(東小)での打合せでは限界があるので大局的な見方に関心があります)

■今日のシンポジウムを含め、非常に有効な内容を勉強した。今後、自治会の会員（住民）にどう浸透させていくかが課題である。優先順位を決め、できるものからやっていきたい。

■今後一般の方が多数参加してくれるとよいのですが。役員だけはさびしいです。小さい子供のいる方、お年寄りと生活されている方、など色々な人達、保育所も考え、参加者が多くなる様。

■災害発生時に状況に応じて避難場所、ルート、手段を選ぶ状況判断材料を示して欲しい。
共助として身障者への対応が求められる。現状は民生委員に負担がかかっている。これをコミュニティ全体としての取組みに変えて行く必要がある。

■一中生の取り組みをとてもたのもしく思っています。自主防災会でも中学生のパワーは重要だと感じていて、中学生をリーダーに、小学校高学年や親も巻き込んでの活動になれば良いと思います。
防災を考える上で、東海岸南の課題として「①観光客が多いときの被災」「②ペットの扱い」が良く話として挙がります。何かアイデアがあると良いのですが。地域の特性を考慮した防災対策が重要と感じています。それと、子供が非常に多い地域なので、若い親も多く、上手に引き込んでいくことが大切です。イベントや何かのきっかけになる機会を増やして、参加してもらいたいですね。

■今日はいつも子供がワークショップで何を行っているか興味があったので参加させてもらいました。地域の人や生徒たちが日ごろ防災について考えていることがよくわかりました。
天サイ！まなぶくんやグーグルアースでも危険度を知ることが出来るということも知る事が出来ました。でも参加してみなければわからなかったので、ぜひ、色々な方法でみんなに知って欲しいと思います。
また、もっと住民一人一人の意見もすい上げる事が理想だと思います。

■地区防災について、中学生の方が積極的に活動されていること、茅ヶ崎の未来の大人の力を感じました。
いろいろな沢山の情報があり、今後の防災に活かせるのかと思いました。
職場に戻り、今日のみなさんの活動を伝えたいと思っています。ありがとうございました。

■各自治会会員がシンポジウムの事がわかっているか？シンポジウムを行うならば広く自治会員にわかるようお願いします。

■東日本大震災の津波のイメージが強く、我々の地域は火災がこわいとの意識がうすい。
今回のシンポジウムのスタンスを住民に浸透させたい。

■中学生ががんばっているので、大人の方もおおいに参加してほしい。
これからも防災まちづくりに協力していきたいと思う→住民みんながまちづくりに参加できるように自治会で話し合っていきたい。

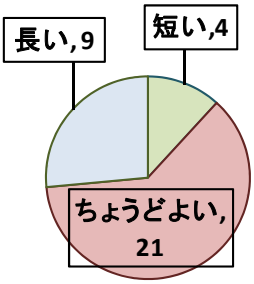
■限界は有るやも判りませんが、一中の現在の活動の更なる発展と展開が楽しみであり、期待もしています。そしてできればこの子供達の活動が市内の高校にも拡大していけないかと思います。

■今日のシンポジウムで避難訓練をこれからどうするかという課題が見つかりました。
シンポジウムに参加したことのない、知らない幸せを感じている人たちにぜひ参加してもらいたいと思った。あと、参加している人の大半が年配の方と中学生なので、その間の世代の方に参加してもらいたい。

シンポジウムの際に、ご記入いただきましたアンケート結果をご紹介します。(ご回答:34 名)

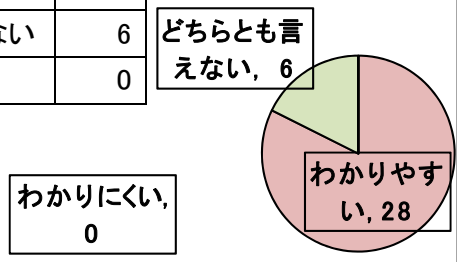
【質問1】シンポジウムの時間は…？

選択肢	回答者数
短い	4
ちょうどよい	21
長い	9



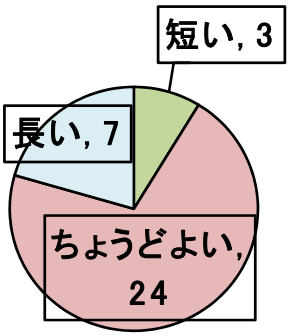
【質問2】配布された資料は…？

選択肢	回答者数
わかりやすい	28
どちらとも言えない	6
わかりにくい	0



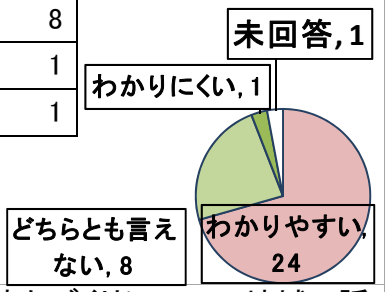
【質問3】当日の説明は？

選択肢	回答者数
短い	3
ちょうどよい	24
長い	7



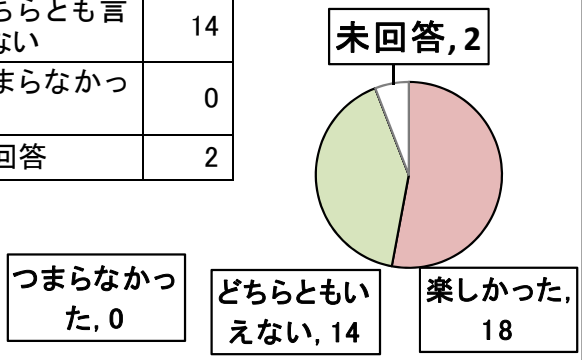
【質問4】当日の説明は…？

選択肢	回答者数
わかりやすい	24
どちらとも言えない	8
わかりにくい	1
未回答	1



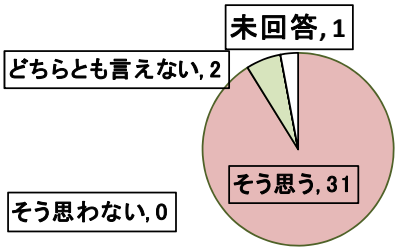
【質問5】本日のご感想は …？

選択肢	回答者数
楽しかった	18
どちらとも言えない	14
つまらなかった	0
未回答	2



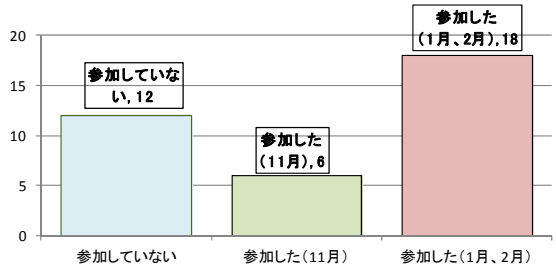
【質問6】今後も防災まちづくりについて地域で話していきたい？

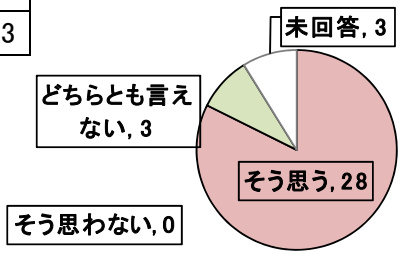
選択肢	回答者数
そう思う	31
どちらとも言えない	2
そう思わない	0
未回答	1



【質問7】昨年度の防災まちづくりワークショップには？

選択肢	回答者数	選択肢	回答者数
参加していない	12	参加した(1、2 月)	18
参加した(11 月)	6	未回答	2



【質問8】今後、防災まちづくりワークショップを実施してみたい？

選択肢	回答者数
そう思う	28
どちらとも言えない	3
そう思わない	0
未回答	3